

新潟市版「情報活用能力」育成の指針

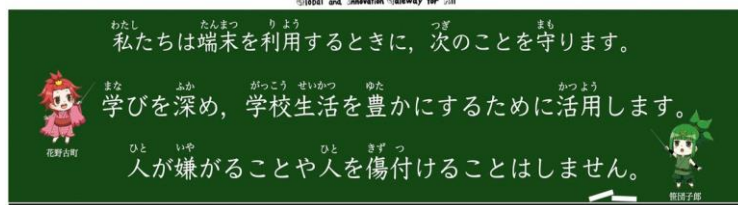
1 ねらい

「学習の基盤となる資質・能力」である情報活用能力を適切に育成するための基本的な考え方や目指す姿、育成するスキルを具体的に示すことにより、全市的な情報活用能力の育成や、ICT端末を安全かつ効果的に活用するための参考にできるようにする。

2 内容

- (1) 情報活用能力を育成する基本的な考え方
- (2) 情報活用能力を発揮しながら学ぶ自立した学習者のイメージ
- (3) 情報モラルを高めている学習者のイメージ
- (4) 情報スキル・プログラミング能力 目標体系表

新潟市GIGA宣言



情報活用能力を育成する基本的な考え方

＜年間の見通しをもって、教える割合を減らし、委ねる割合を増やす＞

自立した学習者を育てるため、下図のようにできるだけ子どもに委ねる割合を増やすことが大切です。その際、目の前の子どもの発達段階、実態によって「割合」が変化することはあります。

教える／委ねる
割合の目安

端末活用の場面や方法（使う・使わないの判断や使用する機能やツールなど）について（イメージ）



年度初め、新しい仲間や教師と出会い、端末活用の在り方についての意識をそろえていく時期。
※しっかりと教える割合を確保

子ども一人一人が自分の特性に合わせて、機能やツールを使い始めることを可能とする時期。
※場面、場合によって割合を判断

子どもが自分らしい学びの方法を自分で選び、進めていくことを信頼し、支援していく時期。
※委ねる割合を大半にしてい

それぞれの時期に 教師はどうあるべきか

教師は、端末の使い始めの時期、子どもたちの情報活用能力の**実態を把握**し、子どもと共に「端末活用」の在り方や**これから目指す姿を共有**する。

教師は、意識的に**手本を示したり、望ましい活用をしている子どもを価値付けたり**、教科の学びとも連動させながら、**適切な情報**を子どもに与える。

教師は、意図的に、子ども自らが**選択・判断する場を設定**するようにする。その判断が「目的」や「場面」に対して妥当か、また「学び」に向かうものを**総合判断しながら、適宜、価値付けたり、指導したりし、全体へ広げていくようにする。**

その際、一斉指導だけでなく、個別指導も織り交ぜながら、**丁寧に進めていく。**

教師は、**必要最小限の指示におさえ**、子ども自身が情報活用能力を基として、各教科等や教育活動全般で資質・能力を発揮しながら、学んだり、生活したりすることを見守**っていくようにする。**

子どもが授業時間以外でも目的に応じて活用していくことで、創造的な活用も増えていくことが期待できる。

情報活用能力を発揮しながら学ぶ 自立した学習者のイメージ -ICT端末を活用した学びにおいて目指す姿-

<個別最適な学びの視点>

★ デジタル思考ツールの 選択・活用

- ☐ 教師の指示で活用できる。
- ☐ 自分に合った思考ツールを選んで活用できる。

★ デジタル教科書・教材 の選択・活用

- ☐ デジタル教科書・AIDリル等を自分の進度に合わせて活用している。
- ☐ AIDリルの個人カルテ機能で、自分の学びを調整している。



★ 学び方を支えるツールの選択・活用

- ☐ タイマー等を使って、自分の学習時間を管理している。
- ☐ カレンダーアプリ等で、計画を立てて学習している。

★ 特性に応じたツール・機能 の選択・活用

- ☐ アクセシビリティ機能(拡大鏡や読み上げ機能等)を活用している。
- ☐ アプリカタログのアプリを自由にダウンロードして活用している。



★ 学習過程に応じたツールの 選択・活用

- ☐ 「課題設定」、「情報収集」、「整理分析」、「まとめ・表現」、「振り返り」等、学習過程にあったアプリケーションを選択・活用している。

どの学年でも、発達段階や個人の特性に応じて、
繰り返し指導する

★ デジタルポートフォリオを用いた学びの改善

- ☐ ロイロノート等で、生活や授業を振り返り、生かそうとしている。
- ☐ キャリアパスポートを用いて、自らの学びを振り返っている。

<協働的な学びの視点>

★ 他の人への貢献を考えた活用

- ☐ 進んで自分の知っているよい機能やツールの使い方を紹介している。
- ☐ 機能面で困っている友達にやり方を教えるなど、進んで助けている。
- ☐ 不適切な使い方をしている人に助言するなど、共によりよく端末を使おうとしている。

★ 協働的に課題解決するための活用

- ☐ ロイロの共有ノート、Googleジャムボード、Appleフリーボード等、共同編集・共同制作機能を活用し、協働して課題解決している。
- ☐ 友達と使用アプリを分担してアプリやツールを選択・活用し、協働して課題解決している。

★ 考えを共有するための活用

- ☐ ロイロノートやGoogle workspace、Teams、Zoom等で、友達の意見や成果物等を参考にしながら、自らの考えを練り上げている。

TAGAINI MIGATA

Global and Innovation Gateway for All

★ 協働的に課題解決のための活用

- ロイロの共有ノート、Googleジャムボード、Appleフリーボード等、共同編集・共同制作機能を活用し、協働して課題解決している。
- 友達と使用アプリを分担してアプリやツールを選択・活用し、協働して課題解決している。

★ 特性に応じたツール・機能の選択・活用

- アクセシビリティ機能(拡大鏡や読み上げ機能等)を活用している。
- アプリカタログのアプリを自由にダウンロードして活用している。

★ デジタルポートフォリオを用いた学びの改善

- ロイロノート等で、生活や授業を振り返り、生かそうとしている。
- キャリアパスポートを用いて、自らの学びを振り返っている。

★ 学習過程に応じたツールの選択・活用

- 「課題設定」、「情報収集」、「整理分析」、「まとめ・表現」、「振り返り」等、学習過程にあったアプリケーションを選択・活用している。

★ 学び方を支えるツールの選択・活用

- タイマー等を使って、自分の学習時間を管理している。
- カレンダーアプリ等で、計画を立てて学習している。

★ 他の人への貢献を考えた活用

- 進んで自分の知っているよい機能やツールの使い方を紹介している。
- 機能面で困っている友達にやり方を教えるなど、進んで助けている。
- 不適切な使い方をしている人に助言するなど、共によりよく端末を使おうとしている。

情報活用能力を発揮しながら学び 自立した学習者のイメージ

★ 考えを共有するための活用

- ロイロノートやGoogle workspace、Teams、Zoom等で、友達の意見や成果物等を参考にしながら、自らの考えを練り上げている。

使いこなせ!!

★ デジタル教科書・教材の選択・活用

- デジタル教科書・AIDリル等を自分の進度に合わせて活用している。
- AIDリルの個人カルテ機能で、自分の学びを調整している。

★ デジタル思考ツールの選択・活用

- 教師の指示で活用できる。
- 自分に合った思考ツールを選んで活用できる。



わたし たんまつ りよう つぎ まも
私たちは端末を利用するときに、次のことを守ります。

まな ふか がっこう せいかつ ゆた かつよう
学びを深め、学校生活を豊かにするために活用します。

ひと いや ひと きざ つ
人が嫌がることや人を傷付けることはしません。



情報モラルを高めている学習者のイメージ

-情報モラル指導を通して目指す姿-

「**情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度**」を育成するためには、思いやり、礼儀、節度などの**日常的なモラル**と、夢中になるとやめづらくなることがあるといった、**ICTが関係するモラル**を組み合わせる指導することが大切です。

(文部科学省「教育の情報化に関する手引き」参照)

下の5つで示しているのは、情報モラル指導を通して育成を目指す姿のイメージです。
子どもの実態に応じて、**デジタル・シティズンシップの考え方**も取り入れながら、子ども自身に考えさせて繰り返し指導、資質・能力を高めていくようにします。

Lv.3

オンライン上でのいじめ行為も現実世界と同じように許されないことだと理解し、行わない。

Lv.2

オンライン上のやり取りとリアルなやり取りの違いを知り、意識している。

Lv.1

オンライン上でのいじめや悪口にはどのようなものがあるか知っている

コミュニケーションと責任

★ 指導の目安

Lv.3

小学校高学年以上

Lv.2

小学校中学年

Lv.1

小学校低学年

Lv.3

違法な行為とは何かを考え、発信した方がよい情報、してもよい情報、しない方がよい情報、してはいけない情報を理解し、情報発信を行っている。

Lv.2

情報の保護について考え、聞かれてもよい質問と聞かれたら困る質問を判断し、答えるかどうか決めている。

Lv.1

デジタル空間のコミュニティに誰が参加しているのか知っている。

ルール・マナーを守る

Lv.3

自分に合ったメディアバランスの計画を考え、実行している。ウェブサイトでの安全な行動を行うことができる。

Lv.2

自分がどのメディアをいつ、どのくらいの時間使ったか分かり、振り返る。不適切な情報であるものを認識し、対応できる。

Lv.1

iPadを使わない時間と場所が分かり、決めた約束を守る。不適切な情報に出合った時は大人に相談している。

健康と安全

Lv.3

個人情報を他の人に知られないようにするためにはどうするとよいか分かり、実行している。

Lv.2

個人情報と非個人情報の違いを知り、公開してもよいもの、したくないものを決めている。

Lv.1

個人情報には何があるか知っている。

情報セキュリティ・プライバシー

Lv.3

複数のメディアや情報源から得た情報を批判的に検討し、正しいものを選択・活用している。

Lv.2

情報には著作権があることを理解し、正しく引用・利用している。

Lv.1

情報源が信頼できるかどうか判断する基準（制作者、タイトル、ウェブサイトなど）を知っている。

公共性への自覚

情報スキル・プログラミング能力 目標体系表

学校種 学年	情報スキル			プログラミング能力
	A タイピング	B 操作	C 情報資源活用	D プログラミング
高等学校	☐ 1分間に60字以上	☐ アプリケーション、システム、デジタルの特徴を理解し、適切にカスタマイズして活用できる。	☐ 目的に応じて、より効果的に施設や資料を活用する。	☐ 変数を使ってプログラムを作成することができる。 ☐ 関数を使ってプログラムを作成することができる。
中学校	☐ 1分間に50字以上	☐ 容量を考えながら、ファイル管理ができる。 ☐ 操作についての不明点を自分で解決できる。	☐ 目的に応じて施設を利用する。 ☐ メディアの種類や特性を生かして活用する。 ・出典、アドレス、著作権、引用、要約、要旨、情報の選択、評価	☐ 目的に応じて、順次・分岐 ・反復を使ってプログラミングができる。 ☐ 目的に応じて、フローチャートを作成し、修正することができる。 ☐ プログラムの不具合から、修正箇所を見つけることができる。
小学校 高学年	☐ 1分間に40字以上 ☐ 全角・半角・英字・数字・記号などを使い分けて入力できる。	☐ 目的や場面に応じて、アプリケーションを選択、組み合わせて活用ができる。 ☐ クラウドの基本が分かり、データの保存・管理ができる。 ☐ 表計算の基本機能が分かり、使える。	☐ 多様な公共施設やメディアの特性を知り、選択・活用する。 ＜施設＞図書館、博物館、美術館 等 ＜資料＞年鑑、統計資料、年表、新聞 等 ・日本十進分類法 ・奥付、著作権、要旨 情報の整理、図示	☐ 簡単な反復処理のプログラミングができる。 ☐ 簡単な分岐処理のプログラミングができる。 ☐ 簡単な分岐処理のプログラムをフローチャートに表すことができる。
小学校 中学年	☐ 1分間に20字以上 ☐ ローマ字で正確に入力できる。	☐ 各種アプリケーションで、共同編集機能を用いて学習できる。 ☐ Google Workspaceの基本機能を使える。	☐ 公共図書館の利用方法を知り活用する。 ・分類、ラベルの見方 ・国語辞典、漢字辞典、百科事典 ・出典、引用、要約、情報の分類 ・iPadでの電子書籍の借り方	☐ 簡単な順次処理のプログラミングができる。 ☐ 情報処理の手順を図で表すことができる。
小学校 低学年	☐ IDとパスワードの入力 ☐ 簡単な文が打てる。 ☐ タイピングに親しむ。	☐ コンピュータの簡単な操作 ☐ 写真や動画の撮影 ☐ ロイロノートの基本機能の活用	☐ 学校図書館を利用する。 ・図書館のきまり ・レファレンスサービス ・図鑑 ・目次、索引、書き抜く、情報の読み取り、情報の比較 ・iPadでの図書館蔵書検索の仕方	☐ 身近な生活でコンピュータが利用されていることを知っている。 ☐ 簡単なプログラミング的な考え方が使える。